

2024年度（令和6年度） 町田市立南中学校 国語科 2年 年間指導計画及び評価規準

使用教科書：国語2（光村図書出版） 年間授業時数：140時間

月	単元・章・教材名	時数	学習目標	学習活動	評価規準
4	見えないだけ	1	<p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 詩を通読する。</p> <p>・好きな言葉や表現をノートに書き写し、その理由をまとめる。</p> <p>2 好きな言葉や表現を発表する。</p> <p>3 詩の特徴を生かして朗読する。</p> <p>・友達の発表を聞いて考えたことも踏まえて、詩の内容が効果的に伝わるように工夫して朗読する。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ)</p> <p>→詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由と共にまとめている。</p> <p>【態】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。</p>
4	アイスプラネット	4	<p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を通読する。</p> <p>・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>2 「ぐうちゃん」について整理する。</p> <p>・「ぐうちゃん」の特徴を捉える。(学習①-1)</p> <p>・「ぐうちゃん」に対する「僕」「母」「父」それぞれの思いがわかる言動や表現を挙げ、それらに込められた思いを考える。(学習①-2)</p> <p>3 「ぐうちゃん」に対する「僕」の思いを読み取る。</p> <p>・「ぐうちゃん」のほら話に対する「僕」の考えの変化を捉える。(学習②-1)</p> <p>・「僕」が「ぐうちゃん」の部屋に二度と行かなかった理由を考える。(学習②-2)</p> <p>・手紙と写真を受け取ったときの「僕」の気持ちを想像する。(学習②-3)</p> <p>4 「ぐうちゃん」に対する自分の思いをまとめる。</p> <p>・「ぐうちゃん」の考え方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら感想をまとめる。(学習③)</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・登場人物の設定の捉え方について、わかったことを挙げる。</p> <p>・これまでに読んだ作品を一つ取り上げ、登場人物の設定を確認する。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア)</p> <p>【態】積極的に登場人物の設定のしかたなどを捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。</p>
4	聞く]問いを立てながら聞く	1	<p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり、それ</p>	<p>1 「友達の提案」を聞き、要点をメモする。</p> <p>・意見と根拠を整理し、疑問に思うことや確認したいことを考えながら聞く</p> <p>2 メモを基に、意見や根拠について検討する。</p> <p>・グループ内の友達と意見や根拠の適切さについて話し合う。</p> <p>3 「上達のポイント」を読み、学習を振り返る。</p> <p>・意見とその根拠について、疑問に思うことや確認したいことを考えながら聞くことができたか。</p> <p>・根拠の客観性や、意見と根拠の結び付きを確かめることができたか。</p>	<p>【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。((2)ア)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア)・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話す。</p> <p>【態】進んで論理の展開などに注意して聞き、今までの学習を生かして疑問点や確認したい点を考えようとしている。</p>

			らを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)		
4	季節のしおり 春	1	<ul style="list-style-type: none"> ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) 	<ul style="list-style-type: none"> ・春の行事・暦に関わる言葉や、春の情景を詠んだ詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ)</p> <p>【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>
5	枕草子	3	<ul style="list-style-type: none"> ◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「枕草子」を朗読し、古文を読み味わう。 <ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字を調べる。 ・現代語訳を参考に情景を想像し、古文を朗読する。 2 作者のものの見方や感じ方を読み取る。 <ul style="list-style-type: none"> ・冒頭を読み、作者が四季のどんなところに趣を感じているのかを整理し、自分が感じる四季の趣と比べる。 ・P30の章段を読み、作者が「何」の「どんな」様子を「どう」感じているのかについて整理する。 3 自分流「枕草子」を書く。 <ul style="list-style-type: none"> ・「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を表す文章を400字程度で書く。 4 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・作者のものの見方や考え方について、印象に残っているものを、理由と共に挙げる。 ・自分ならではの季節感を表す文章を書き、友達と読み合って、感想をまとめる。 	<p>【知・技】現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。((3)イ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) <p>【態】進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。</p>
5	情報整理のレッスン 思考の視覚化	1	<ul style="list-style-type: none"> ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 教材文を読み、情報を整理し、視覚的に表す方法を理解する。 2 問題1～3に取り組む。 3 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・情報を書き出して整理し、関係を図で表す四つの方法についてポイントを確認する。 	<p>【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ)</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使おうとしている。</p>
5	多様な方法で情報を集めよう 職業ガイドを作る	5	<ul style="list-style-type: none"> ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア) 	<ol style="list-style-type: none"> 1 調べる職業を決め、情報を集める。 <ul style="list-style-type: none"> ・調べてみたい職業を決める。 ・その職業について知りたい項目や内容を挙げ、それらに適した調べ方を考えて、多様な方法で情報を集める。 2 集めた情報を分類・整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ・複数の情報源から集めた情報を、図や記号、表などを用いて分類・整理する。 ・目的に合った情報を精査し、取捨選択する。 3 紙面構成を考える。 4 下書きし、紙面を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・下書きをして、推敲し、清書する。 5 完成した作品を読み合い、感想を伝え合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・作品を読み、まとめ方や情報の活用のしかたでよいと思った点や、感想を伝え合う。 6 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・どのような方法を用いて、情報を集めたか。 	<p>【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。((2)イ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>【態】粘り強く多様な方法で集めた材料を整理し、学習の見通しをもって職業ガイドを作ろうとしている。</p>

				・集めた情報をどのように整理したか。	
5	漢字1 熟語の構成 漢字に親しもう1	1	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1 教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。 2 練習問題に取り組む。 3 P40「漢字に親しもう1」に取り組む。	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
5	クマゼミ増加の原因を探る	4	◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 全体と部分の関係に注意して、構成を捉える。 ・「研究のきっかけ」に示された文章全体に関わる問題提起と、それに基づく大きな仮説を確かめる。(学習①-1) ・「前提」に書かれた内容を確かめ、筆者が三つの仮説の前に、この部分を置いた理由を考える。(学習①-2) ・線や矢印を使って六つの部分の関係を整理する。(学習①-3) 3 文章と図表の関係に注意して、内容を読み取る。 ・三つの仮説に対する検証の内容とその結果を、それぞれ文章中の言葉を用いて簡潔にまとめる。(学習②-1) ・グラフや模式図、写真などを示した筆者の意図を、それに対応する文章との関係を基に考える。(学習②-2) ・「研究のきっかけ」に示された大きな仮説は証明されたといえるか、「まとめ」を読んで自分の考えを説明する。(学習②-3) 4 考えたことを話し合う。 ・筆者が検証によって否定された仮説を挙げた理由や三つの仮説をこの順序で並べた理由を考え、グループで話し合う。(学習③) 5 学習を振り返る。 ・「科学的な根拠を一步一步積み上げて臨む」筆者の姿勢は、どんなところに表れているかを考える。 ・文章の構成や図表の使い方の中で、効果的だと感じたものを挙げる。	【知・技】話や文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ →文章が六つの部分でできていることを理解し、線や矢印を用いてそれらの関係を整理している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。(C(1)ア) →筆者の主張を捉え、それと仮説1～3との関係を理解している。 ・「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。(C(1)ウ) →文章中の図表やグラフが何のために示されているのかを、対応する文章を基に考えている。 【態】積極的に文章と図表などを結び付け、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。
5	思考のレッスン1 具体と抽象	1	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1 教材文を読み、具体と抽象の概念を理解する。 2 問題1, 2に取り組む。 3 学習を振り返る。 ・考えを伝え合うときに、具体と抽象の観点を意識しながら話し合うと理解が深まることを確認する。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア 【態】学習課題に沿って、積極的に具体と抽象の関係について理解しようとしている。
5	魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする	5	◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 提案内容を決めて、情報を集める。 ・プレゼンテーションのテーマを決め、相手、話題、目的を確	【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確にな

			<p>を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>◎資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	<p>かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の興味などを踏まえて提案内容を決める。 情報を集め、提案の詳細を決める。 <p>2 効果的な話の構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 進行案を作り、話の構成や提示資料を工夫する。 役割分担や時間配分を決め、話す練習をする。 <p>3 プレゼンテーションをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとにプレゼンテーションをする。 相手や目的にいちばん適した提案をクラスで選び、その理由も含めて話し合う。 <p>4 プレゼンテーションを振り返り、よかった点や改善点を考える。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 提案をするとき、どんなところに気をつけたか。 	<p>るように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A(1)イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ) <p>【態】粘り強く自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。</p>
6	漢字に親しもう2	1	<p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
6	文法への扉1 単語をどう分ける？	2	<p>◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 P59の導入や解説を読み、単語が幾つかの観点で分類されることを確かめ、そのうち「自立語」について学ぶことを理解する。</p> <p>2 P234文法1「自立語」を読み、自立語の各品詞の性質などについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 P234下段「話すこと・書くことに生かす」を読み、ここでの学習を今後の学習に生かせるようにする。 	<p>【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ)</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に自立語について理解を深めようとしている。</p>
6	メディアを比べよう メディアの特徴を生かして情報を集めよう 「自分で考える時間」をもとう	3	<p>◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、多様な方法で集めた材料を整理することができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 メディアを比べて、特徴を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> P60-61に示されたさまざまなメディアを「速報性」「詳細さ」「信頼性」の三つの観点で比較し、その根拠を話し合う。 話し合ったメディアの特徴と根拠を、表や図などにまとめる。 <p>2 目的や状況に応じたメディアの選び方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> P62「やってみよう」に取り組む。 大きな災害を想定し、状況に応じてどのようなメディアを選ぶとよいかを考える。 <p>3 情報の受け取るときの留意点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> P64『「自分で考える時間」をもとう』を通読する。 ニュースがどのように編集されているかについて、具体例(編集の例①～③)を基に考える。 <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> メディアから適切な情報を得るためには、どのような方法で、何を確認すべきか、わかったことをまとめる。 	<p>【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈している。(C(1)イ) 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ) 「書くこと」において、目的や意図に応じて、多様な方法で集めた材料を整理している。(B(1)ア) <p>【態】粘り強く観点を明確にして文章を比較し、学習課題に沿って目的や状況に応じたメディアの選び方を理解しようとしている。</p>

			<p>★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>・自分が今後、メディアから情報を得る際に意識していきたいと思うことを伝え合う。</p>	
7	短歌に親しむ 短歌を味わう	4	<p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	<p>1 P68「短歌に親しむ」を通読し、短歌を朗読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・情景を想像しながら、短歌を声に出して読む。(学習①) <p>2 短歌についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短歌の特徴についてまとめる。(学習②-1) ・本文中から、筆者のものの見方や感じ方がよく表れている表現を抜き出す。(学習②-2) ・好きな一首を選び、自分の知識や経験と結び付けて感想を書く。(学習②-3) <p>3 P72「短歌を味わう」を読み、内容や表現のしかたについて感じたことを話し合う。</p> <p>4 P73「短歌を作ろう」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目にした情景、心に残る出来事や感動したことなど、題材を探して短歌を作る。 ・自他の短歌を比較して、表現の特徴や効果について話し合う。 <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのようなことに着目して、短歌を読み味わったか。 ・短歌の創作において、心情や情景などを伝えるために、どのような工夫をしたか。 	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)エ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) ・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。(B(1)ウ) <p>【態】進んで短歌の構成や表現の効果について考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。</p>
	【書写】書の古典の鑑賞と学習	3	<p>●移動教室を契機に感じたことなどを短歌に詠む。</p>	<p>1 事前学習において短冊と色紙についての知識を学ぶ。</p> <p>2 移動教室を通して目にした情景、心に残る出来事や感動したことなどについて短歌を作る。</p> <p>3 小筆または筆ペンで短冊に短歌を書く。</p>	<p>【思・判・表】自分の体験や感想を短歌にまとめている。</p> <p>これまでの学習を生かしながら、点画の連続・漢字と仮名の大きさ、配列などを理解して書いている。</p>
7	言葉の力	2	<p>◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意する語句・新出漢字を調べる。 <p>2 文章を要約して、内容を捉える。(学習①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つのまとまりに分け、それぞれの内容を要約する。 <p>3 筆者の考え方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「言葉の世界での出来事と同じこと」とあるが、何と何が、どのように同じだと述べているのかを考える。(学習②-1) ・美しい言葉、正しい言葉に対する筆者の考え方について、自分はどのように考えるか、話し合う。(学習②-2) <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを広げたり深めたりするために、今後、本や文章をどのように読んでいきたいかを考える。 	<p>【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。((3)エ)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p> <p>【態】進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。</p>
7	言葉 1 類義語・対義語・多義語	2	<p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味</p>	<p>1 導入の課題に取り組み、言葉どうしの関係性について興味をもつ。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、</p>

			<p>を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>2 教材文を読み、類義語・対義語・多義語について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例を基にして、それぞれの語がどのような関係にあるのかを考える。 ・「生活に生かす」を読み、言葉の幅を広げるのに、類義語・対義語に注目するとよいことを知る。 	<p>話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に類義語と対義語、多義的な意味を表す語句などについて理解しようとしている。</p>
7	言葉を比べよう もっと「伝わる」表現を目ざして	1	<p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 言葉を分類して、類義語を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書にある言葉を、「具体的な物や事柄を表す言葉」と「抽象的な概念を表す言葉」に分類する。 ・「抽象的な概念を表す言葉」から一つ選び、類義語を集める。 <p>2 類義語を比較し、わかったことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた類義語を使って文を作り、そこからわかった違いをまとめる。 <p>3 P81「対義語を考える」に取り組む。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>→抽象的な概念を表す言葉について理解し、類義語の微妙な違いを考えることを通して語感を磨いている。</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に抽象的な概念を表す語句の量を増し、語感を磨こうとしている。</p>
7	読書を楽しむ	1	<p>◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。</p> <p>2 「本の紹介合戦」、「読書ポスター」、「本のリスト」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。</p> <p>3 活動の内容に沿って、見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本の紹介合戦は、読書記録を基に本を決め、その魅力が伝わるような紹介のしかたを考える。 ・読書ポスターは、グループでテーマを決め、それに合った本を選ぶ。 ・読書記録は記録のしかたを確認する。 <p>4 グループごとに活動を行い、感想を発表し合う。</p>	<p>【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ)</p> <p>【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。</p>
7	翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま	1	<p>◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ)</p> <p>◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>	<p>1 二人の翻訳者による「星の王子さま」を読み比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・翻訳の違いによる作品の印象の違いについて考え、発表し合う。 <p>2 翻訳や外国文学について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「星の王子さま」や読書コラムを読み、「翻訳」の意味や、翻訳作品・外国文学のおもしろさについて理解する。 <p>3 P87「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。</p>	<p>【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) <p>【態】進んで表現の効果について考え、学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感じたことを発表しようとしている。</p>

7	【書写】書式の教室	2	●年賀状の書式を学び、自己の生活で活用する。	1 年賀状の書式を学ぶ。 2 時期に合致した書式で実際に書く。	【知・技】書式を使う場面に合った留意点で書いている。
9	季節のしおり 夏	1	・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	・夏の行事・暦に関わる言葉や、夏の情景を詠んだ詩歌などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
9	盆土産	4	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 作品の構成を捉える。 ・それぞれの場面に描かれた内容を、「時・場所・出来事」の観点でノートに整理する。(学習①) 3 登場人物の言動の意味を考える。 ・人物の言動や様子を描いた表現から読み取れる、人柄や心情について考える。(学習②-1) ・作品中の「えびフライ」「えんびフライ」という語について、それぞれ話し手のどんな心情が込められているか発表する。(学習②-2) 4 自分が捉えた作品の印象を伝え合う。 ・具体的な場面や描写を基に、作品の印象や特徴を伝え合う。(学習③) 5 学習を振り返る。 ・登場人物の言動の意味に着目することで、どんなことが読み取れたか挙げる。 ・印象に残っている物語や小説を一つ取り上げ、自分なりの印象を、次のような形で短くまとめる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →登場人物の言動から人柄や心情を読み取り、それらが話の展開や作品の印象にどう関わるかを捉えている。 【態】粘り強く登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って作品の印象を伝え合おうとしている。
9	字のない葉書	3	◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 二つの思い出を整理する。 ・二つの思い出の内容を整理する。(学習①-1) ・筆者がこの随筆を書いた時点を、叙述を基に考える。(学習①-2) 3 表現に着目して、人柄や心情について読み取る。 ・前半部分の思い出から想像される父親の人柄を、文章中の表現を踏まえてまとめる。(学習②-1) ・妹に対する家族の心情を、妹の行動や様子の変化に着目して想像する。(学習②-2) ・なくなった父親に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているか、表現に即して考える。(学習②-3) 4 父親に対する「私」の思いについて考える。 ・自分が共感できることや共感しにくいと思うことを発表し合う。(学習③) 5 学習を振り返る。 ・前半と後半で、表現のしかたにどんな違いがあったか、自分の言葉でまとめてみる。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →前半部分と後半部分の人柄や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えている。 【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。

				<ul style="list-style-type: none"> 随筆をより深く味わうためには、どんな点に着目して読むとよいか、友達と考えを交流する。 	
9	聞き上手になろう 質問で思いや考えを引き出す	1	<p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	<ol style="list-style-type: none"> インタビューの準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> 教材文を読み、役割を理解し、「今、夢中になっていること」や「私が輝く瞬間」をテーマに、インタビューの準備を行う。 インタビューを行う。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書の例を参考に、思いや考えを引き出すためにどのように質問したらよいかを考える。 「話し手」、「聞き手」、「聴衆」の役割を交代しながら、インタビューを行う。 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 「話し手」、「聞き手」、「聴衆」それぞれの立場から、気づいたことや考えたことを出し合う。 	<p>【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。((1)ア) →どのように質問をすると、相手がさらに話したくなるかを考えている。</p> <p>【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)</p> <p>【態】粘り強く論理の展開に注意して聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出す質問をしようとしている。</p>
9	表現を工夫して書こう 手紙や電子メールを書く	3	<p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 手紙と電子メールを比較し、活用場面を考える。 <ul style="list-style-type: none"> 教科書の例を参考に、手紙と電子メール、それぞれの特徴を表にまとめる。 伝えたい内容を決め、通信手段を選ぶ。 手紙や電子メールを書く。 <ul style="list-style-type: none"> 通信文を書き、気持ちや用件が伝わったかどうかを互いに伝え合う。 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> 相手や目的に応じて、言葉遣いをどのように気をつけたか。 通信手段をどのような観点で選んだか。 気持ちや用件が伝わるように、どんな点に注意したか。 	<p>【知・技】 ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。((1)カ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いや考えが伝わるように、具体例を加えたり、表現の工夫をしたりして通信文を書いている。</p> <p>【態】積極的に自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習課題に沿って通信手段を選び、通信文を書こうとしている。</p>
9	【推敲】表現の効果を考える	1	<p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 木本さんの手紙の下書きを読み、適切な文字や表記に書き改める。 ……線部㊦㊧について、より効果的な表現を考える。 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> どのような点に着目して、手紙を推敲したか。 	<p>【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。((1)カ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)</p> <p>【態】粘り強く文章を整え、今までの学習を生かして手紙を推敲しようとしている。</p>
9	言葉2 敬語	1	<p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 導入の例文を読み、敬語の使い方について考える。 教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。 教材文を読み、敬語の組み合わせについて考える。 	<p>【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。((1)カ)</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。</p>
9	漢字2	1	◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その	1 教材文を読み、同じ訓をもつ漢字の使い分けについて理解す	【知・技】

	同じ訓・同じ音をもつ漢字 漢字に親しもう3		他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	る。 2 教材文を読み、同じ読みで意味の異なる言葉(同音異義語)の使い分けについて理解する。 3 P121の練習問題とP122「漢字に親しもう3」に取り組む。	・第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) 【態】学習課題に沿って、積極的に同音異義語を理解し、漢字を読んだり書いたりしようとしている。
10	モアイは語る ——地球の未来	4	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の構成や論理の展開について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 文章の構成に着目し、内容を捉える。 ・文章全体を序論・本論・結論に分ける。(学習①-1) ・筆者が序論で示している問いと、それに対する答え、また、答えの根拠として挙げられている事実を要約し、表にまとめる。(学習①-2) 3 論理の展開を吟味する。 ・筆者が考えるイースター島と地球との共通点を読み取る。(学習②-1) ・イースター島の事例を示した理由について、筆者の主張との関係に着目して考える。(学習②-2) ・「モアイの秘密」を解き、それを基に地球の未来を語る筆者の論理の展開について、「効果」や「説得力」という観点から話し合う。(学習②-3) 4 筆者の主張に対する考えを文章にまとめる。 ・筆者の主張に対する自分の考えを、自分の知識や体験と重ねて200字程度でまとめる。(学習③) 5 学習を振り返る。 ・「モアイ」は何を語っているのか、「モアイ」「歴史」「未来」の三つの言葉を使って、端的に説明する。 ・論理の展開を捉えるとき、どのような点に着目すると効果的か、自分の言葉で説明する。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(1)オ) 【態】粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
10	思考のレッスン2 根拠の吟味	1	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1 教材文を読み、根拠を吟味する方法を理解する。 2 問題1, 2に取り組む。 3 学習を振り返る。 ・文章を読んだり、相手の話を聞いたりするときには、根拠を把握し、その根拠に説得力があるかどうかを吟味することが大切だということを確認する。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【態】今までの学習を生かして、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。
10	根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く	4	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生	1 課題を決め、分析する。 ・社会生活の中から課題を決める。 ・表などを使い、観点ごとに長所と短所をまとめる。 ・友達どうして整理した内容を見せ合い、助言し合う。 2 立場を決めて考えをまとめる。 ・賛成・反対の立場を決め、意見を支える根拠を考える。 3 反論を想定して、構成を考える。 ・反論を想定して、それに対する意見を考える。	【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) 【態】粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書くようとしている。

			<p>活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・P136「構成のしかた」「構成メモ」を参考に、意見と根拠、反論に対する意見を書く順序を考え、構成メモを作る。 <p>4 意見文にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P136「意見文の例」を参考に、下書きをし、推敲して600字から800字程度でまとめる。 <p>5 意見文を友達と読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠の適切さについて、説得力があると思ったところや改善点を伝え合う。 <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠の適切さを考えたか。 ・自分の意見が明確に伝わるように、文章の構成を工夫したか。 	
10	漢字に親しもう4	1	<p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
10	[討論]異なる立場から考える	1	<p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p>	<p>1 テーマに沿って集められた①～⑧の事実を読む。</p> <p>2 賛成・反対それぞれの立場の人が、①～⑧を基にどんな意見を述べるのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一つの情報が、賛成・反対どちらの根拠にもなり得ることを理解する。 ・同じ観点でも、根拠とする情報により異なる意見になり得ることを理解する。 <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる立場の人の意見を想定して、どんなことに気づいたか。 	<p>【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ)</p> <p>【態】進んで意見と根拠の関係について理解し、今までの学習を生かして異なる立場の人の意見を想定しようとしている。</p>
10	立場を尊重して話し合おう 討論で多角的に検討する	3	<p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p>	<p>1 討論のテーマを決め、情報を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域や社会で話題になっていることの中から、討論したいテーマを探す。 <p>◇賛否や是非の分かれるものを選ばせるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広く情報を集め、整理する。 <p>2 立場を決めて、考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の立場を決め、意見と根拠をまとめる。 ・異なる立場の人の考えを予想し、それに対する答えを考える。 <p>3 グループで討論する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P142「討論をする」を参考に、討論の流れや意見の伝え方、質問のしかたを捉えさせる。 ・グループを作り、討論を行う。 <p>4 討論を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・討論による考えの深まりや広がりについて伝え合う。 <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・客観性の高い根拠を基に考えをまとめたか。 	<p>【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) <p>【態】進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。</p>

				・討論をするときに、どのようなことに気がつけたか。	
1 1	音読を楽しもう 月夜の浜辺	1	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎詩の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1 全文を通読する。 ・新出漢字を調べる。 ・「忍びず」、「袂」、「沁みる」などの語句の意味を確認する。 2 詩を声に出して読む。 3 表現に着目し、その効果について考える。 ・反復表現や対句表現、反語表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像する。 4 言葉の響きやリズムを味わいながら朗読する。 ・七音の繰り返しのリズムや反復の効果を感じ、情景や心情を想像しながら読む。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ。 【思・判・表】「読むこと」において、詩の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) 【態】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を朗読しようとしている。
1 1	季節のしおり 秋	1	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	・秋の行事・暦に関わる言葉や、秋の情景を詠んだ詩歌などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
1 1	源氏と平家 音読を楽しもう 平家物語	1	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1 「源氏と平家」の資料を読み、「平家物語」の主要な人物や主な戦いについて知る。 2 「平家物語」の概要と文章の特徴を知る。 3 冒頭部分を音読し、独特の調子とリズム、言葉の響きを味わう。 ・歴史的仮名遣いに注意して正しく読む。 4 冒頭部分の現代語訳を読み、「平家物語」を貫く「無常観」のイメージをもつ。 5 作品を貫く「無常観」と重ねて冒頭部分を朗読する。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読している。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) →冒頭部分の現代語訳を読んで、「無常観」を感じ取っている。 【態】進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、学習課題に沿って朗読しようとしている。
1 1	扇の的 —— 「平家物語」から	4	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 2 「平家物語」の冒頭部分と「扇の的」を繰り返し朗読する。(学習①) 3 登場人物の言動から、心情を考える。 ・与一、見守る源氏の武士たち、義経の思いをそれぞれの言動から考え、話し合う。(学習②-1) ・「あ、射たり。」と言った人と、「情けなし。」と言った人の気持ちについて話し合う。(学習②-2) 4 読み取ったことを基に自分の考えを述べる。 ・「扇の的」に登場する人物たちの言動から読み取ったものの見方や考え方について、自分の考えを述べる。(学習③) 5 学習を振り返る。 ・古典の文章の調子やリズムについて、どんなことを感じたかを発表する。 ・登場人物の言動から、どのようなものの見方や考え方を読み取ったか、まとめたものを見返す。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) 【態】進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
	【書写】行書と仮名の調和と配	2	・行書と仮名の調和や配列を理解して書くことができる	1 これまで学習してきた行書と仮名の調和や、配列を理解して	【知・技】 行書と仮名の調和や配列を理解して書いている。

	列			書く力を生かして、硬筆で古典教材を書く学習であることを知る。 2 『平家物語』の冒頭部分について、批評を生かして書く。	
1 1	仁和寺にある法師 ——「徒然草」から	3	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 2 「徒然草」の冒頭部分と「仁和寺にある法師」の原文を朗読する。(学習①) 3 本文を読み、内容をまとめる。 ・法師の勘違いの内容を、原文やP159の図を使って説明する。(学習②-1) ・法師の勘違いについて、作者がどのように捉えているかを原文から考える。(学習②-2) 4 法師と同じような勘違いをした経験がないかを踏まえて、考えたことを話し合う。(学習③) 5 学習を振り返る。 ・どんなことに気をつけて文章を朗読したか発表する。 ・作者のものの見方や考え方について、感じたことをまとめる。 6 人物の特徴を捉えて、文章にまとめる。 ・P161「人物の特徴を捉えて論じよう」を読み、手順を確かめる。 ・「扇的」や「仁和寺にある法師」の登場人物の中から、論じる人物を決める。 ・選んだ人物の特徴を捉えて、人物像を300字程度で論じる。 7 文章を友達と読み合い、学習を振り返る。 ・古典の登場人物の特徴をわかりやすく伝えられるように、文章の構成を工夫したか。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ)【態】積極的に考えたことを知識や経験と結び付け、学習の見直しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。
1 1	漢詩の風景	3	◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	「目標」や「学習の見直しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見直しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 漢詩の特徴を生かして朗読する。(学習①) 3 解説を手がかりに、漢詩を読み味わう。(学習②) 4 好きな漢詩を選び、その理由を伝え合う。 ・三編の漢詩から、自分の好きな一編を選び、気に入った表現や句を抜き出す。(学習③-1) ・抜き出した表現や句を引用して、その漢詩を好きだと思った理由を述べる。(学習③-2) 5 学習を振り返る。 ・漢詩特有の言葉遣いや調子が感じられる部分を発表する。 ・それぞれの漢詩から、どんな情景や心情を読み取ったか、話し合う。	【知・技】作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) 【態】進んで作品の特徴を生かして朗読し、学習課題に沿って好きな漢詩を選び、その理由を述べようとしている。
1 2	君は「最後の晚餐」を知っているか 「最後の晚餐」の新しさ	4	◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て、内容を解釈することができる。	「目標」や「学習の見直しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見直しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 「君は『最後の晚餐』を知っているか」の内容を捉える。 ・「最後の晚餐」(P173,174)の図版と本文を結び付けて読み、「解剖学」「遠近法」「明暗法」が使われているところを理解	【知・技】 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的に応じて複数の情報を整理しながら適

			<p>(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>する。(学習①-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者が「最後の晩餐」を「カッコいい」と思った理由について、文章中の言葉を使って簡潔にまとめる。(学習①-2) <p>3 文章を比較して、構成や表現の特徴を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点を決めて「君は『最後の晩餐』を知っているか」と『最後の晩餐』の新しさを比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を確かめる。(学習②-1) ・文章の構成や表現の特徴について、比較を通して発見したことを発表する。(学習②-2) <p>4 考えたことを文章にまとめる。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者がなぜこのような書き方を選んだのか、目的や意図と結び付けて考える。 ・文章の構成や表現が、文章全体にどのような印象を与えているかを考える。 <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較によって初めて気づいたことや理解が深まったことを踏まえて、文章を比較することの効果友達に報告する。 ・二つの文章に使われていた構成や表現のいずれかを取り入れ、自分が好きな作品について論じる。 	<p>切な情報を得て、内容を解釈している。(C(1)イ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ) <p>【態】粘り強く観点を明確にして文章を比較し、今までの学習を生かして考えたことを文章にまとめようとしている。</p>
1 2	魅力を効果的に伝えよう 鑑賞文を書く	2	<p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>1 作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品を鑑賞し、魅力を一文で表す。 ・根拠となる具体的な特徴、感じたこと・想像したことを付箋などに書き出す。 <p>2 表現の効果を考える。</p> <p>→P184窓「作品の魅力を効果的に伝えるには」</p> <p>3 鑑賞文を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み手を意識して、200字程度で書く。 <p>4 文章を読み合い、意見交換をする。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の魅力が伝わるように、言葉や表現をどのように工夫したか。 	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) <p>【態】進んで表現の効果を考えて描写し、今までの学習を生かして鑑賞文を書こうとしている。</p>
1 2	漢字に親しもう5	1	<p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
1 2	文法への扉2 走る。走らない。走ろうよ。	2	<p>◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学</p>	<p>1 P187の導入や解説、P238文法2「①活用」を読み、「活用」の意味や用語について理解する。</p> <p>2 P239文法2「②用言の活用 1 動詞の活用」を読み、動詞の活用について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 <p>3 P241文法2「②用言の活用 2 形容詞・形容動詞の活用」を読</p>	<p>【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ)</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に単語の活用について理解しようとしている。</p>

			習に取り組む態度)	み、形容詞・形容動詞の活用について理解する。 ・下段の練習問題に取り組む、理解の程度を確かめる。	
1 2	研究の現場によろこそ 日本に野生のゾウやサイがいた頃 クモの糸でバイオリン 読書案内 本の世界を広げよう	1	◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア) ★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)	1 「研究の現場によろこそ」を通読する。 2 「クモの糸でバイオリン」を通読する。 3 感想を伝え合う。 ・教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う。 4 P191「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) 【態】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとしている。
1 2	季節のしおり 冬	1	・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	・冬の行事・暦に関わる言葉や、冬の情景を詠んだ詩歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) 【態】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
	【書写】毛筆 点画の省略・筆順の変化・行書と仮名の調和	6	・点画の連続を理解して、字形を整えて書くことができる。 ・「いとへん」の筆順の変化を理解し、字形を整えて書くことができる。 ・点画の連続と配列を理解して書くことができる。	1 行書点画の連続と省略の筆遣いについて確認する。 2 行書の筆順の変化について確認する。 2 漢字の行書と仮名を調和させて書く。	【知・技】 ・点画の連続を理解して、字形を整えて書いている。 ・「いとへん」の筆順の変化を理解し、字形を整えて書いている。 ・点画の連続と配列を理解して書いている。
1 2	【書写】書き初めを書く	3	●行書の特徴や配列を理解し毛筆で書くことができる。	1 1年の学習を振り返る。 2 2年の行書手本の特徴と筆遣いを考え、話し合う。 3 二つの手本のうち一つを選択し、特徴や配列を理解し毛筆で書く。	【思・判・表】友好の精神」「真理の探究」の特徴と筆遣いについて考えを発信している。行書手本の特徴や配列を理解し毛筆で書いている。 【態】今までの学習を振り返り、知識や技能を活用しながら自己の学びを表現している。
1 2	【書写】書式の教室	2	●年賀状の書式を学び、自己の生活で活用することができる。	1 年賀状の書式を学ぶ。 2 時期に合致した書式で実際に書く。	【知・技】書式を使う場面に合った留意点で書いている。
1	走れメロス	6	◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)	1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 作品の設定と構成を押さえる。 ・人物・時・場所・出来事などに着目して幾つかの場面に分け、作品の構成を確認する。(学習①) 3 場面の展開に即して人物像を読み取る。 ・冒頭から「メロス」が王城を出発する場面までで、「メロス」と「王」はどんな人物として描かれているかを考える。(学習②-1) ・村から刑場に向かう途中で、「メロス」の考え方や心情は、	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)

			<p>◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>どんな場面でどのように変化しているかを考える。(学習②-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・刑場で「王」の人物像は何をきっかけにどう変化したかを考える。(学習②-3) <p>4 作品の魅力をまとめ、語り合う。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が感じた作品の魅力を文章にまとめる。 ・まとめた文章を基に、作品の魅力をグループで語り合う。 <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「メロス」の行動や考え方について、共感できたところ・できなかったところを、理由と共にまとめる。 ・何に着目して作品の魅力を捉えたかを考え、他の作品を読むときにも生かせそうな観点を挙げる。 	<p>・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>【態】粘り強く登場人物の言動の意味などについて考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。</p>
1	漢字に親しもう6	1	<p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
2	文法への扉3 一字違いで大違い	2	<p>◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。(知・技(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 P215の導入や解説を読み、付属語の働きについて考える。</p> <p>2 P244文法3「①付属語」を読み、付属語の種類について理解する。</p> <p>3 P244文法3「②付属語の種類 1 助動詞」を読み、助動詞の働きについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 <p>4 P246文法3「②付属語の種類 2 助詞」を読み、助詞の種類と働きについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。 	<p>【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する。(1)オ)</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に助詞や助動詞の働きについて理解しようとしている。</p>
2	構成や展開を工夫して書こう「ある日の自分」の物語を書く	4	<p>◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★短歌や俳句、物語を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	<p>1 これまでに学習してきた物語や小説を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品の設定や構成、登場人物の心情の変化について確かめる。 <p>2 題材を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活を振り返り、取り上げたい「ある日」を選ぶ。 <p>3 物語の設定とあらすじを考える。</p> <p>4 構成や展開を工夫して物語を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P218「構成の例」を参考に、起承転結の流れで構成する。 ・場面の展開が明確になるように工夫しながら、600字程度の物語を書く。 <p>5 友達が書いた物語を読み、助言し合う。</p> <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した物語や小説を振り返るとき、どんなところに着目したか。 ・場面の展開が明確になるように、どんなところを工夫したか。 	<p>【知・技】話や文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) ・「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ) <p>【態】粘り強く文章の構成や展開を工夫し、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。</p>
2	言葉3 話し言葉と書き言葉	2	<p>◎話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。(知・技(1)イ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<p>1 導入の例文から、話し言葉と書き言葉の違いについて考える。</p> <p>2 音声の特徴から話し言葉を捉え、文字の特徴から書き言葉を捉える。</p>	<p>【知・技】話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。(1)イ)</p> <p>【態】今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。</p>

			活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	<ul style="list-style-type: none"> ・同音異義語の伝え方を理解する。(話し言葉) ・漢字、平仮名、片仮名、句読点、常体・敬体の使い方に関する。(書き言葉) 	
3	漢字3 送り仮名	2	<p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。 2 教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。 3 P223の練習問題に取り組む。 	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり、書いたりしようとしている。</p>
3	国語の学びを振り返ろう	4	<p>◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p> <p>★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 グループで話し合い、壁新聞のテーマを決める。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年間のできるようになったことや考え方が変わったことを出し合う。 ・自分たちの変化から「国語を学ぶ意義」を考え、グループで壁新聞のテーマを一つに決める。 2 壁新聞の内容を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・内容と割り付け、必要な写真や図を話し合う。 3 壁新聞を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・分担して、記事の下書きをする。 ・下書きを推敲し、記事を清書する。 4 壁新聞を読み合い、感想を伝え合う。 5 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年間の学習を振り返り、国語を学ぶ意義を見いだすことができたか。 ・伝えたいことをどのように壁新聞にまとめたか。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話や文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ) ・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ) <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →壁新聞のテーマと内容について、お互いの意見の共通点・相違点を明らかにしながら話し合い、結論を導いている。 ・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) <p>【態】粘り強く文章の構成や展開を工夫し、今までの学習を生かして壁新聞を作ろうとしている。</p>
3	木	2	<p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 詩を通読する。 2 詩の中の印象に残った表現を挙げ、どんな印象を受けたかを話し合う。(学習①) 3 表現の意味を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・第三連の「木は囁いているのだ」「歩いているのだ」「走っているのだ」は、木のどのような様子を表しているかを考える。(学習②-1) ・作者の考える「愛」や「正義」がどんなものなのかを考える。(学習②-2) 4 作者のものの見方について語り合う。(学習③) <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」が「木」のことを、これほど好ましく思っている理由を考える。 ・詩の中で「木」と対比されているものについて考える。 	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p> <p>【態】進んで詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。</p>
3	学習を振り返ろう	3	<p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 P256の小説を読み、学習課題に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・長編版「アイスプラネット」の冒頭を読み、教科書の文章と比較する。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア)

		<p>うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎意見と根拠, 具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎文章全体と部分との関係に注意しながら, 登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎観点を明確にして文章を比較するなどし, 文章の構成や論理の展開, 表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎自分の立場や考えが明確になるように, 根拠の適切さや論理の展開などに注意して, 話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>◎論理の展開などに注意して聞き, 話し手の考えと比較しながら, 自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり, 表現の効果を考えて描写したりするなど, 自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎読み手の立場に立って, 表現の効果などを確かめて, 文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>▼言葉がもつ価値を認識するとともに, 読書を生活に役立て, 我が国の言語文化を大切に, 思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★詩歌や小説などを読み, 引用して解説したり, 考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり, それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)</p> <p>★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど, 伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	<p>・設定の違いを表にまとめる。</p> <p>・登場人物の違いによって加わる展開の可能性について考える。</p> <p>2 P257の提案を聞き, 学習課題に取り組む。</p> <p>・大川さんの提案を聞き, 大川さんが卒業生に伝えたいことは何かを考える。</p> <p>・自分が卒業生に言葉を贈るとしたら, どんな言葉を選ぶかを考え, 出典を明らかにして, その言葉と選んだ理由を書く。</p> <p>3 P258のメールの下書きを読み, 学習課題に取り組む。</p> <p>・山内さんのメールの下書きを読み, 推敲する。</p>	<p>・敬語の働きについて理解し, 話や文章の中で使っている。(1カ)</p> <p>・意見と根拠, 具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において, 文章全体と部分との関係に注意しながら, 登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア)</p> <p>・「読むこと」において, 観点を明確にして文章を比較するなどし, 文章の構成や論理の展開, 表現の効果について考えている。(C(1)エ)</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において, 自分の立場や考えが明確になるように, 根拠の適切さや論理の展開などに注意して, 話の構成を工夫している。(A(1)イ)</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において, 論理の展開などに注意して聞き, 話し手の考えと比較しながら, 自分の考えをまとめている。(A(1)エ)</p> <p>・「書くこと」において, 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり, 表現の効果を考えて描写したりするなど, 自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>・「書くこと」において, 読み手の立場に立って, 表現の効果などを確かめて, 文章を整えている。(B(1)エ)</p> <p>【態】 進んで登場人物の設定のしかたや根拠の適切さを考え, 今までの学習を生かして, 学習課題に取り組もうとしている。</p>
--	--	---	--	---

※大半の授業で映像や資料の提示のために ICT を活用している。